

## 平成27年度 県民フォーラム意見について

### 1 はじめに

「水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」（以下「県民フォーラム」という。）は、水源環境保全・再生の取組について、県民の意見を幅広く収集するとともに、水源環境保全・再生に係る情報の提供・発信等を目的に「水源環境保全・再生かながわ県民会議」（以下「県民会議」という。）が開催するものである。

平成19年度から平成26年度までに、24回の県民フォーラムを開催したところである。参加者からの意見を取りまとめ、県に対して報告を行い、県から報告に対する回答を受けている。

このたび、平成27年度に開催した3回の県民フォーラムについて、参加者からの意見を取りまとめ、県に報告するものである。

### 2 平成27年度県民フォーラムの結果概要

第二十五回	日時	平成27年7月26日（日）10：30～16：50
	会場	横浜シンポジア
	出席者	施策調査専門委員会 浅枝 隆、伊集 守直、鈴木 雅一、田中 充、吉村 千洋 県民フォーラムチーム 北村 多津一、倉橋 満知子、坂井 マスミ、中門 吉松、西 寿子、 前田 裕司、森本 正信 （上記以外）青砥 航次、佐藤 恭平、服部 俊明、林 義亮、増田 清美
	参加者数	141名
	内容	水源環境保全税による取組みのこれまでとこれから (1) 基調講演「水源地域の多様な役割と未来」 ランドスケープアーキテクト・東京都市大学教授 涌井 雅之 (2) これまでの取組みについて（水源環境保全課） (3) 討議の趣旨・論点説明（県民会議 田中座長） (4) 意見発表 ○「水源保全地域の経済的価値の向上」 長崎大学大学院教授 吉田 謙太郎 ○「森林環境と水源かん養機能」東京農工大学 准教授 五味 高志 ○「林業現場と住宅建築における県産木材利用の現状」 (株)神工舎建築工房 代表役員 田代 信行 ○「丹沢大山自然再生計画によるシカと森林の一体的管理」 日本獣医生命科学大学教授 羽山 伸一 ○「水源河川流域の水質に関する現状と課題」 埼玉大学大学院 教授 浅枝 隆 (5) 討議（分科会） <テーマ>これまでの10年の総括、これからの10年の取組みについて (6) 質疑・意見集約 (7) 評価アピール発表

第二十六回	テーマ	おしえて・話して！かながわの森と水
	日時	平成27年10月12日(月・祝) 13:30~16:15
	会場	厚木商工会議所 大会議室
	出席者	県民フォーラムチーム 北村 多津一、倉橋 満知子、坂井 マスミ、中門 吉松、西 寿子、 前田 裕司、森本 正信 コミュニケーションチーム 滝澤 洋子、増田 清美 (上記以外) 篠本 幸彦
	参加者数	78名
内容	(1) ミニ講演(講演20分×3名、質疑応答15分) ○「かながわの水環境」 埼玉大学大学院理工学研究科教授 浅枝 隆 氏 ○「ワイルドライフレンジャーの取組み」 ワイルドライフレンジャー 片瀬 英高 氏 ○「水源の森林整備」 (有)杉本林業 杉本 貴広 氏 (2) 水源環境保全・再生施策及び骨子案の説明、質疑応答	
第二十七回	テーマ	おしえて・話して！かながわの森と水 in 藤沢
	日時	平成28年1月16日(土) 13:30~16:00
	会場	藤沢リラホール
	出席者	県民フォーラムチーム 北村 多津一、倉橋 満知子、坂井 マスミ、中門 吉松、西 寿子、 前田 裕司、森本 正信 (上記以外) 青砥 航次、篠本 幸彦、増田 清美
	参加者数	93名
内容	(1) ミニ講演(講演20分×3名、質疑応答15分) ○「生態系としての相模川」 東京工業大学大学院理工学研究科准教授 吉村 千洋 氏 ○「私にとっての狩猟」 猟師・自然食研究家 奥山 恭代 氏 ○「山北町森林組合の取組み」 山北町森林組合 専務理事 池谷 和美 氏 (2) 水源環境保全・再生施策及び素案の説明、質疑応答	

第二十八回	日時	平成28年3月12日（土）10:00～15:00
	会場	県立21世紀の森（南足柄市内山2870-5）
	出席者	県民フォーラムチーム 北村 多津一、倉橋 満知子、坂井 マスミ、 中門 吉松、森本 正信
	参加者数	184名
	内容	個人県民税の超過課税（水源環境保全税）を財源として実施する水源環境保全・再生に係る取組・成果について、情報提供等を行うことを目的に実施 ○森林館内での展示物の紹介・解説、クイズの実施 ○屋外ブース内での体験教室（葉巻笛作り）、 ○屋外ブース内でのクイズの配布・回収（クイズ回答者へわたあめ・コーヒ一等を贈呈） ○着ぐるみ「しずくちゃん」による演出 ○各種広報資料の配布（リーフレット「森は水のふるさと」、「支えよう！かながわの森と水」）

### 3 県民フォーラム意見

第25回～第28回県民フォーラムにおけるアンケート集計結果及び個々の意見内容は、13-21ページ～13-25ページのとおりである。

### 4 平成27年度 県民フォーラム意見の傾向について

県民フォーラムで寄せられた意見について、「森林整備」、「水源環境への負荷軽減」、「情報提供・普及啓発」、「市民活動支援」、「県外対策」、「水源地域の活性化等」、「その他」の7項目により分類した。結果は下記表のとおりである。

水源環境保全・再生施策についての「情報提供・普及啓発」に関する意見が最も多く寄せられた。主な意見としては、「子どもへの教育にも力を入れて欲しい」「広報活動に工夫の余地あり」等が寄せられた。なお、「その他」の項目には県民フォーラムの感想や運営に関する意見等を分類した。

平成27年度 項目別意見件数

項目		意見件数				
		第25回	第26回	第27回	第28回	計
1	森林整備	3件	1件	5件	1件	10件
2	水源環境への負荷軽減	2件	2件	0件	0件	4件
3	情報提供・普及啓発	8件	0件	2件	0件	10件
4	市民活動支援	0件	0件	0件	0件	0件
5	県外対策	2件	0件	0件	0件	2件
6	水源地域の活性化等	0件	0件	0件	0件	0件
7	その他	16件	5件	8件	23件	52件
計		31件	8件	15件	24件	78件

第25回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム意見集約表(意見・感想記入欄に記載された意見等)

番号	項目	記載内容
1	森林整備関連項目	森林保全・再生のとりくみは継続して欲しい。
2		森林を整備するにはどのような、また再生の方向をどのように考えているか。河川の樹林化を止める方法は考えられているのか。
3		シカが10年で自然保護のシンボルから目のかたき。今後とのしっかりした管理が必要。
4	水源環境への負荷軽減	ダム湖の水質改善にさらに努力して欲しい
5		水源（桂川は富士山に流れる水と地下水は富士五湖が有り、富士五湖全体が水源であります。何度も書きますけれど富士吉田市、富士河口湖町、山中湖村、忍野村、西桂町、都留市、大月市、上野原市の住民が森林のカンヨウ、一般廃棄物処理及び清掃に関する法律、市町村長の固有事務で、又浄化槽法の示している生活排水について、市町村に働きかけて単独浄化槽を道志村のように市町村設置型合併浄化槽の設置に力を入れていただくように市町村に働きかけていくのでお願いします。
6	情報提供・啓発	第25回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラムの資料である冊子（県民会議46ページ）を税負担に協力いただいた県民の皆様にする等、今後の水源環境保全・再生活動への更なる理解とご協力に向けた取組みを検討されてはいかがでしょうか。（意見番号③⑤選択） （①冊子のミニマム化 ②中学・高校・大学などにおける特別授業化 ③自治体や公益的会社とのコラボレーションによる全戸配布）
7		フォーラムの開催周知の方法を再考して欲しい（もっと一般の住民に周知を）
8		水源環境保全税は県民はまだよく理解していないのではないか。県のたよりなどで報告はされているが、イラストなどで分かり易い活動事業の必要性を伝えるようにしたら良いかと思えます。県民が理解できれば更に良い取り組みとなると思う。 神奈川の水源があたかも4つのダムで成り立っている様な資料が多いが、山梨など他県との協力している活動や取組があるはず。神奈川の水は上流の協力があるもので。他県との協力事業はどの様な物があるのかまたどの位税金を拠出しているのですか。
9		専門家による評価を提示してほしい。その上で県民目線の評価を加えるべき。
10		神奈川県も子供への教育にも力を入れて欲しいと思いました。
11		水資源環境保全税のような目的税については多くの県民にその使徒・効果等を広報する機会を各地で行うべきと思う。1年1回のフォーラムでは不十分。
12		県民へのアピールが必要。関心を引くためには税額のUPも必要
13		広報活動一これまでも充分に行っていると思うが、まだ工夫の余地ありと思う。いかに一般市民に広く、わかりやすく、何より興味を持ってもらえるか。興味を持ってもらった上で、より幅広い参加がある。

第25回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム意見集約表(意見・感想記入欄に記載された意見等)

番号	項目	記載内容
14	県外対策	山梨県との連携は続けて欲しい
15		山梨県、静岡県の上流地域との協力関係が必要。
16	その他	水源環境保全の当初目的を忘れないで欲しい。
17		これまでの取組で判明した課題に対して水源税を有効に活用して欲しい。水源環境の保全に関しては20年といわずロングスパンで進めてほしい。
18		20年間の水源環境保全・再生対策が終了した後の対策を考えたい。今後10年間の取組を新たに展開していく必要がある。
19		関係者の方の熱意は伝わりましたが、関係者以外の人への参加が少ないことにさびしさを感じます。(特に若い人の参加がすくないかと・・・) 継続的な活動になるようにより広報に力を入れた方がよいかと思いました。(一般の人にもより開かれた感じになれば)
20		午後の分科会について「何をするのか」「どのように行うのか」について申込み時やチラシなどの宣伝媒体に記載して頂きたいと思いました。 私も含めて初めての方もより参加しやすくなるのではないかと思います。
21		意見発表が時間不足。基調講演はまとまりがなかった。
22		資料が多い
23		硬軟お混ぜての資料作り、及び広報の方法まですばらしい「モデル」として広くPRすべき
24		周りの椅子をやめて、3人ずつ席にすわらせば
25		討議グループ(分科会)の構成員知りたい。(行政・団体・県民など大きな枠でいいので)
26		超過課税という特別な負担を県民に求める以上、事業の範囲は拡大すべきでない。
27		1.何のためのフォーラムか不明。シンポジウムでは参加者も少ない。 2.税はやめるべき。取組が惰性。 3.通常の林業の取組みなどと連携し、取組みをミックスさせ効果を上げるべきである。 4.つまらないパンフレットをいくつもつくる必要ない。
28		根底に有るのは東日本大震災(福島原発の対応)と思われます。一般国民としては国民の健康と国家の安定(平和)と感じます。
29	もっと一般の市民に取組みを知ってもらうこと。	
30	水質汚染(リン等)の原因をなくす政策が必要なのは。	
31	県民や子供たちを対象にした水源森林ツアーや森林学習を企画・実行してほしい。今後の10年は森や川などを取り入れながら、感性を育てる環境教育にも取り組んでいきたい。	

第26回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム意見集約表(意見・感想記入欄に記載された意見等)

番号	項目	記載内容
1	森林整備関連項目	水源環境を保全するためには、森林の管理伐採を適切に行う事や、シカ等の生物による被害を防ぐ事が非常に大切であることが分かりました。しかしながら水源環境税については期間を区切った税源であり、期間終了後の森林の管理状況が心配される所です。その意味で森林の保全という以上に、森林資源の活用を図ることが、重要な視点であると思います。森林資源の活用を活発化する上で林道整備や材木の活用は効果的であると思います。通常の公共施設の整備や維持管理において水源地特産の材木を使ったり、個人に対しても材木購入に補助することは、水源保全の上でも許容される税の使い方であると思います。今後こうした視点からの森林資源活用に向けた取組みをお願いいたします
2	水源環境への負荷軽減	1. 合併処理浄化槽の整備促進について、浄化槽支援エリアの拡大は生活排水処理率の向上により、水源中流域河川の水質改善することと、県内各市では調整区域の下水道整備事業を10年概成として進めている途中で、水源地としての合併処理・高度処理浄化槽をどのように支援し、エリア拡大するのか詳細を知りたいと思います。流域下水道計画・公共下水道計画の県市町村が進めている中で、どのように整合性を計り進めていくのかは、県土整備局と調整して頂きたい。清川村の人口3,000人は公共下水道をすでに整備している。津久井湖・相模湖へ流入域を同じく高度処理浄化槽の整備促進を水源中流域へ支援拡大するのでしょうか。 2. 桂川・相模川流域協議会の言われる神奈川県の水の半分は山梨県の水である、水源税の0.9%では足りないのでしょうか。例えば清川村の3万頭の豚のし尿処理はどのようにされて小鮎川に流れ込むのでしょうか
3		*四十八瀬川流域について（他の河川状況は分かっていないので） 河川敷の①外来植物の繁殖（オオブタクサ、アレチウリ）②繁殖木（ニセアカシア、オニグルミ他）の異常繁殖対策は？ *葦、ヨシの繁殖による河床の上昇対策は？（NPO四十八瀬川自然村河川部会では河床の葦、ヨシを春に野焼きしたいと考えるが可能性は）
4	その他	特定の意見を持つ県外団体の意見が目立っている。県民フォーラムなのに県外の方が発言すべきではない。制限するべき
5		ワイルドライフレンジャーの取組みについて。シカの捕獲を行う目的・どの位生息していて、どの位減っているのか、その効果が不明確であると感じました（それだけシカが多い中、捕獲数が少ないのであれば、意味があるのか）また、森林の保全といえど、命を奪う事は生物多様性と逆の方向に向かっている気もします。別の場所に住ませる、今後のシカの増加を防ぐ活動に力を入れた方が良いのではないのでしょうか。今の取組みがシカの「管理」、森の保全になっているとは思えない内容でした。
6		カラー版でHPに載せてください
7		全般に早口のせい。マイクの声が不鮮明で聞きづらかった
8		厚木市内の企業の環境活動の一環として、生物多様性、環境資源保護の観点から参加しました。全体的には税金の使い途の承認を得る場との印象が強く「自然環境保護の重要性」や「神奈川の自然を今度どのように創造してゆくか」「これからの活動により、どれだけ回復したか」という説明が不十分だと感じました

第27回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム意見集約表(意見・感想記入欄に記載された意見等)

番号	項目	記載内容
1	森林整備関連項目	大面積のスギ・ヒノキ人工林の間伐時、何か所にギャップを設け、野鳥の好む実のなる広葉樹（ヤマボウシ・ホウノキ・ナナカマド・イイギリなど）を、場合によっては客土や施肥を行って植栽するとよいと思う。大面積な人工林であると広葉樹の種子供給が埋土種子だけでは不十分と思う。水源環境保全税のあるうちに、混交林を早期に導くことのできる手立てを施しておくことが必要と考える。鳥散布による人工林内への広葉樹の拡大による混交林化が期待できると考える
2		水源保養林の区域を地図に示してほしい。私有林の割合はどのくらいか。健全度の高い水源保養林にするためには、何の施策が効率的に向上に寄与するのか。水源保養林の面積は一定か。それとも拡大しているのか
3		現在の原木価格では木材を生産することは非常に難しい。森林が荒廃することは自然環境が短期間に悪化することになる。山が荒れれば、源流からの水が変化し、山崩れ、大水、沿岸地帯の海の水質悪化、水産資源に悪影響と、悪化のサイクルがますます大きくなり、飲料水までおかしくなる。悪化が進むと簡単には状況の改善が不可能になる。河畔林の確保、天然林と人工林のバランス、すべての出発点は原木価格が出发点であり、行政支出の使用面での考え方を変える必要がある
4		間伐材の利用がお金になるような各種の方策・施策を実施し、山林の保全に積極的に取り組む。森林組合、林業家が增えるような取組みをしてほしい
5		都市住民の理解を深めるために県民参加のかたちをとるのはよいと思うが、ボランティアに依存するかのような森林整備はおかしい。仕事として成り立つよう、さらに工夫すべきである
6	情報提供・啓発情報提供	水源環境保全・再生施策に、より県民の意見を反映するため、より多くの県民の理解を得るため、県民フォーラムの規模を大きくする、開催回数を増やすことを検討されたい
7	情報提供・啓発情報提供	水源環境保全・再生のために、森林づくりが大切であり、とてもお金がかかるということがよくわかった。税金を使ってこのような事業をすることは必要と感じる。しかし、こうした森林づくりにかかわっている方々が経済的に厳しい状況であることも、ミニ講演を聞いてよくわかった。やはり木の価値が低いということに驚いた。どうして神奈川県の木は安いのに、大量のパルプをアジアから輸入しているのかよくわからない。森林の価値を上げるためにFSC認証を取るなど、もう少し保全とあわせて木材を利用してもらうためのPRも必要ではないか
8	その他	5か年計画は体系的ともいえるが、総花的にならないように重要度をどのように付けているのか。目標数値（箇所数や予算ではなく）を効果測定できるように、リン濃度目標のような、最終的な効果、結果指標を設定する必要がある。効果の上がる施策に集中する、優先度を設定することも必要と思う。結果指標にはわかりやすい一人当たり良質水割合や節減（リサイクル等）率も必要と思う。この意味でモニタリングは良い、大いに結果を活かしてほしい
9		調整中の9番事業「相模川水系上流域対策の推進」の山梨県と調整した事業費は、他の事業費に影響するのか
10		水源環境保全税について、上水道は生活用以外にも、企業が使う産業用途も多くあると思うが、企業からも水源環境保全税を徴収しているのか。徴収しているのであればその割合は。徴収していないのであればその理由は？
11		・クマによる剥皮被害対策、・未立木地への植栽、・主伐（更新）の促進について、拡充を検討して頂きたい
12		藤沢市では学校給食で使う食器を石けんで洗っている。神奈川県でも進めている、生活排水の問題を生活者に伝える術を多く持ってほしいと思う
13	その他	地球温暖化問題に関係したボランティアを10年間やってきた。最近の異常気象、水不足の問題など世界的な問題が取り上げられてきた。日本国内で水資源の確保、地下水の問題など、身近な問題が現実化しつつある。今回の「県民フォーラム」も当然肝炎していると考えて参加したが、「実行5か年計画（素案）」を見ても、内容は難しく、単語も理解できず、「何が問題なのか」が判断できなかった。県民にもっとわかりやすい言葉と分析で説明してほしい。山北町森林組合の問題など、行政と何を検討しているのか、もっと具体的に報告してもらいたかった
14		材木の利用拡大について、今、テレビなどで木材を使った家具インテリアなどが紹介され、いいアイデアがたくさんある。ホームセンター等との連携なども考えたらどうか。和室、座卓いすにあったテーブル（焼板）のアイデアもおもしろく、是非欲しいと思った。いつまでも、まな板利用だけでは駄目である。イチョウのまな板は重し、乾かすのも大変、若い人、老人には無理である。また、水源の森には関係ないかもしれないが、里山の小川の整備も必要ではないか。大磯の池付近の両岸は草が茫茫、粗大ごみ捨て場になっているのは残念である
15		藤沢市民で日頃、このホールを利用しているが、なぜこのような小ホールで県民フォーラムを開催したのか。参加者が集まらないからなのか

第28回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム(もり・みずカフェ)意見集約表(意見・感想記入欄に記載された意見等)

番号	項目	記載内容
1	森林整備関連項目	林道の整備とシカの流通方法の改善の必要性。日本の林業がうまく活性化していく方法を私達も考えなければと思った
2	その他	びっくりした
3		スギが50年がかりで大きくなるのかと思いました
4		とてもリアルな展示でした
5		むずかしい！
6		しずくちゃんかわいい
7		クイズというのを意識して、意外とボードの内容をしっかりと読んでしまった
8		通り過ぎていましたが、イベントを聞き立ち寄りしました。すばらしい所でした。また来ます！
9		近くに居ながらはじめて来ました。すばらしい所です、また来ます
10		楽しかった
11		水と森、生き物のつながりを改めて学ぶことができました
12		勉強になった
13		面白かった
14		勉強になった
15		たのしかったです
16		いろいろなことがわかってよかった。たのしかった
17		水、木、シカについての説明とても興味深かったです
18		Q3は下草狩りですね
19		シカすごい！！
20		富士山すごい！！
21		シカがすんでいるのにびっくりした
22		楽しかった。孫が大きくなったら家族みなで来ます
23		シカが5kgも食べるなんてびっくりした
24		全て初めて知った